

上田 栄一 議員

(一問一答方式)



- ① 肱川治水対策事業
- ② 市民文化会館
- ③ 大洲農業高校の校舎の使用
- ④ 高校生への給食の提供
- ⑤ 事業者応援チケット事業

大洲農業高校の校舎の使用について

問 現在の大洲農業高校は農業科として大洲高校へ統合が予定されているが、校舎は大洲農業高校のほうがJ R伊予大洲駅にも近く利便性が高いと思う。大洲高校校舎を大洲農業高校校舎へ移すことや2校舎制として両校舎を活用することはできないか。

答 愛媛県教育委員会から今年の3月に発表された県立学校振興計画では、校地は大洲高校を主として活用するが、農業の実習等では大洲農業高校の農場や校舎を活用することが示されています。このことは、J R伊予大洲駅からの距離や通学のしやすさの評価だけではなく、統合により3学年合わせて18クラスとなる学校規模に対応できる施設条件を有しているかなど、様々な評価を踏まえた結果と理解しています。

また、2校舎制は、再編後の学校では授業はもちろん日々の全校・学年集会や部活動など、普段の教育活動はできる限り1つの校地で行い、学校としての一体感の醸成や生徒の社会性の育成、人的ネットワークの形成促進を図ることが好ましいとされています。

こうした考え方に沿って、新校となる大洲高校では、原則として農業科目の実施を除いては現在の大洲高校を校地として授業や部活動など、普段の教育活動が行われるものと理解していることから、2校舎制にはならないと考えています。

高校生への給食の提供について

問 高校生への給食の提供は、需要調査から始め、高校などへのアンケート調査や関係機関との調整を検討するとのことであったが、その後の進展はどうなっているか。

答 まず市内の各高等学校長にアンケート調査の実施について、その趣旨を説明し協力をお願いしています。

また、実際に県立高校への給食提供となると、愛媛県教育委員会の理解と協力が必要となるため、本市でのアンケート調査の実施について県教委へ伝え、状況によっては協力をいただきたいと申入れをしています。

具体的な調査は、大洲市教育委員会が作成し調査対象を高校1・2年生の生徒及びその保護者並びに教職員とし、調査内容は回答しやすいように質問内容は厳選し、給食を希望するか否か、その理由など、選択肢と自由記述欄を設けてお尋ねをしました。

高校生への給食の提供は、子育て世帯の保護者の負担軽減となるとともに、高校の魅力化向上にもつながるものと認識をしておりますので、今後アンケート調査結果を踏まえ、市内の高校や関係機関と連携、調整を進めたいと考えています。

事業者応援チケット事業について

問 予定されている応援チケット事業は、店舗ごとに3,000円分のチケットを2,000円で販売する計画だが、この応援チケット事業より、市民にどの加盟店でも使える商品券を配る事業のほうが喜ばれるのではないかと思うがいかがか。

答 本市にて過去に実施した商品券配布事業について、その利用先を見ると、大型スーパーやドラッグストアに集中し、小規模事業者に支援が行き渡らないといった状況がありました。

この応援チケット事業は、令和2年度に実施した飲食店等応援チケット事業を皮切りに、事業者支援、消費喚起として令和3年度に2回、令和4年度に2回の合計5回実施しており、市民の方にも事業者にも制度が浸透していることや、昨年7月には川上商工会から、地域の経済を守っていくためにも力強い後押しとして応援チケット事業を続けてほしいとの意見もいただいております、地域経済の活性化を図るうえで有効な手段であると考えています。